

## 指定管理者制度導入施設の将来ビジョン

施設名	大分県リバーパーク犬飼
所在地	豊後大野市犬飼町田原字舞田
県の所管部局(課・室)	土木建築部 河川課
設置年月日	平成9年8月(設置から24年7か月)※令和3年4月1日現在
設置目的	大野川の優れた景観を生かし、スポーツ及びレクリエーションの場を提供することにより、県民の健康で文化的な生活の向上を図る
指定管理期間	令和2年4月1日～令和5年3月31日

### 【検討結果】

#### 施設の今後のあり方

存続 (利活用)	存続 (整理統合)	廃止
理由	<p>①平成9年の施設開園以降、サッカーやカヌーの競技者を中心に利用されている 平成30年度以降、年間利用者数が年々増加傾向にある</p> <p>②利用者の95%が「また施設を利用したい」と回答。また、利用者の70%が10回以上施設を利用したことがあり、一度きりの利用で終わらない需要がある(R2年度利用者アンケート)</p> <p>③10代～60代以上の幅広い年齢層に利用されており、様々な年代が利用できる施設となっている</p> <p>(補足) 敷地内に天然芝のグラウンドが2面あり大会等での利用がしやすい。また、隣接する河川においても年間を通した水量の面で九州随一のカヌーコースとなっており、施設としての特色・強みがある</p>	
管理方法の検討(存続の場合)	<p>以下の理由により今後も「指定管理制度」を承継</p> <p>①指定管理者を民間業者としたR2年度は平成27年度以来5年ぶりに利用者目標数を達成した</p> <p>②経費の削減や利便性の向上などの面で民間業者のノウハウを活用していくメリットが大きい。(Goap株式会社が指定管理者となってから現在までの間に、Web予約やクレジット決済の導入、電力会社の見直し、ロボット草刈機の導入などを実施)</p> <p>(参考)直近の管理状況 ・平成30年度～令和元年度・・・県が委託料を支出し2年間豊後大野市に任意指定 ・令和2年度～令和4年度・・・県と市の施設の指定管理者がGoap株式会社に決定</p>	

#### ビジョンの設定期間

ビジョンの設定期間	令和4年度～令和13年度
次回策定(中間見直し)	令和8年度
次回指定管理者公募予定	令和4年度(5か年更新)

## 存続の場合

### 1. 目指すべき施設像及び利用者像等

施設像	<p>①<u>広大な自然を生かしたアウトドア施設</u></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・天然芝のグラウンドが2面あるという強みを生かし、スポーツ利用を促進</li><li>・九州内屈指のカヌーコースを利用し、カヌー競技での利用促進</li></ul> <p>(補足) 施設についての聞き取りを行ったところ、大分県サッカー協会からは天然芝グラウンドを2面所有しており、大会等が開催しやすい点が強みであるとの意見があった。また、大分県カヌー協会からは大野川は常に一定の水量がありカヌーコースとして適していることが強みであるとのことであった。また、カヌーコースについては令和3年2月にカヌースラローム日本代表が強化合宿を行った。</p> <p>②<u>敷地内の全施設を活かし複合的に楽しめる施設</u></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・豊後大野市所管の施設(キャンプ場、バーベキュー場)と一括で指定管理をしているという利点を活かした複合的な利用の検討と推進</li></ul>
利用者像	<p>①<u>クラブチーム</u></p> <p>例年最も利用の多い層。今後も継続して利用してもらうため芝を適正に管理する (参考)例年利用者の40%程度を占める</p> <p>②<u>学生</u></p> <p>学校のグラウンド等自前の練習場を持っている層。土のグラウンドを所有しているケースが多いため、天然芝のグラウンドという点で学校のグラウンドと差別化を図り、大会前の利用等を中心に利用者の増加を目指す。 また、現状では一部の学校の利用が大半を占めるため積極的な広報活動により新たな利用者の獲得を目指す</p> <p>③<u>社会人</u></p> <p>自前の練習場を持っていない利用者が多い層。グラウンドが2面あり複数チームの予約が可能である点、またグラウンドが天然芝であるという点を積極的に周知することにより他の類似施設と差別化を図り、利用者の獲得を目指す</p> <p>④<u>カヌー競技者</u></p> <p>大野川でカヌー競技を行う層。九州内屈指のコースであることを県内外に向けてPRする</p> <p>⑤<u>健康増進・親睦活動・自然体験を楽しむ人</u></p> <p>競技利用以外で健康増進等のために施設を利用する層。</p>

定量的 目標達成指標	①	年間利用者数の増	年間 11,000人 (現状 10,300人)
	②	利用者満足度の増	令和2年度の利用者アンケートにおいて「大満足」または「満足」と回答した利用者の割合は58%であった。この数値を基準とし、令和4年度より毎年利用者満足度の3%アップを目標とする 令和4年度 61%      令和8年度 73%      令和12年度 85% 令和5年度 64%      令和9年度 76%      令和13年度 88% 令和6年度 67%      令和10年度 79% 令和7年度 70%      令和11年度 82%
	③	豊後大野市所管の施設との複合的利用件数 (新規目標)	令和4年度～令和5年度 1件/年    令和6年度～令和7年度 3件/年 令和8年度～令和9年度 5件/年    令和10年度～令和11年度 7件/年 令和12年度～令和13年度 10件/年
定性的 目標達成指標	①	芝の質の向上 ・専門業者の意見を聞きながら適正な芝管理を行う	
	②	カヌーコースの利用の推進 ・九州内屈指のカヌーコースという強みを活かし、利用の推進を目指す	
	③	豊後大野市との連携強化 ・豊後大野市の施設と相互の利活用が進むよう、予約状況等の共有など連携強化を図る	

2. 目指すべき像を達成するための課題とその解決策、実施方法・実施時期（解決への優先順に記載）

課題1	人口減少・少子高齢化に関する課題		
(1)人口減少・少子高齢化による利用者数の減少			
解決策	①県内在住者の利用を増やすための取組 ②大会等での利用の広報 ③施設全体を活かした利用の周知		
実施方法・実施時期	①施設についての広報活動(通年) 専門業者の意見を取入れて芝管理を行うなど、芝のコンディションの維持・管理に力を入れている点、グラウンドが2面あり複数チーム予約が可能である点を周知する ②大会等での利用を推進し県内外からの利用者を呼び込み(通年) 1会場で2試合の開催が可能であるという強みを活かして大会利用を推進し、県内外から利用者を呼び込む ③施設の複合的利用の広報活動(年度末～年度当初) 一般的にチームのメンバーが増える年度当初の時期の利用を見込み、年度末から年度当初にかけて重点的に、県施設の利用と併せたキャンプ場やバーベキュー場の利用など施設の複合的な利用について広報活動を行う		

(参考)	平成30年度(2018年度)	令和12年度(2030年度)	令和27年度(2045年度)
予測利用者数(人)	8,427	8,191	7,398
直近年度比		97.20%	87.79%

課題2	施設管理に関する課題
<p>(1)芝についての利用者満足度の向上 R2年度は例年と比較して夏場の利用が増加した結果、相対的に冬場の芝状況が悪く感じられたのか利用者アンケートの一部に満足度の低いものがあった</p> <p>(2)施設全体の利用者満足度の更なる向上</p>	
解決策	<p>①芝の質を確保できる利用上限の検討 専門業者の意見を取入れながら芝の質の維持・管理が可能な利用上限を決定する</p> <p>②利用者の利便性向上</p>
実施方法・実施時期	<p>①専門業者の意見を参考に芝管理を行い、芝の養生期間の設定や予約の受入れなど柔軟に対応する</p> <p>②利用者アンケートを年度内に複数回実施し利用者の意見を取入れながらソフト面・ハード面で柔軟に対応する</p>

課題3	新たなニーズに関する課題
<p>(1)多目的グラウンドという呼称であるが現状では利用がサッカーのみに限られている</p> <p>(2)サッカーでの利用についても利用者が一部のクラブチームや学校の利用が主である</p>	
解決策	<p>①多目的グラウンドの新たな利用方法の検討</p> <p>②多目的グラウンドの広報活動</p>
実施方法・実施時期	<p>①サッカー施設としての芝の状態を保ちながら、多目的グラウンドとしての他の用途を模索する</p> <p>②広報活動により、グラウンドが2面あり複数チームの予約が可能である点、グラウンドが天然芝であるという点をPRし利用者層の拡大を図る</p>